

「アフリカの国家と下からの政治 (“le” politique par le bas) 再考」

1. 本研究の目的

20年前の議論を現在の文脈で問い直す意味があるのか？

1) アフリカの国家が問い直される現在

2) 20年間のアフリカの国家の軌跡をひとつの概念軸から考える

「下からの政治」とは？ (“le” politique par le bas の意味)

1) 単なる「下から上へ」、「下 vs 上」ではない、「政治的なもの」を重視（政治行動に至る背景を考える）

上からの政治との連続性と闘争（逃走）政治ベクトルの多様性を重視（支配-従属の二項対立的関係からの脱却）

2) Le politique par le bas と des modes d'action politique

「政治行動の大衆様式」研究グループの開始：バヤール、トゥラボ、（ンベンベ？）らと共に

大衆様式は、一元的でも固定的でもない

グラムシ、フランス現代思想（フーコー、ドゥルーズ）からの強い影響

現在の文脈で「下からの政治」を議論する意味

アフリカの国家を考える上で何が見えてくるのか？（国家をめぐる様々なキーワードにおいて）

：政治参加、権力、民主化（の挫折）紛争、市民社会、分権化、グローバル化、開発、国家-社会関係、
国家の相対化、無秩序の道具化、胃袋の政治、地方政治、等。

2. (参考) 仏語圏での「アフリカの国家」研究（著書に限定）レビュー

検索範囲

Politique Africaine 誌バックバンパー

3. 「下からの政治」研究（80年代のフランスのアフリカ政治研究）の歩み

「下からの政治」研究の起源：

1) 開始の経緯：近代化論、システム論、構造機能主義、従属論から脱却し、アフリカ政治の新しい研究
アプローチを模索

2) アフリカ社会：歴史的に形成されてきた社会→非歴史（歴史超越）的研究アプローチを拒否

3) 「下からの政治」「大衆の政治行動」：単なる反権力ではなく、権力に関連する大衆の政治行動を研究

研究の展開

1) 「下からの政治」研究（国際関係研究所（CERI）での共同研究：1980-86年）

：多様な方法論を尊重し、政治研究に歴史、地理、人類学、言語学、社会学的方法論を取り入れる

研究対象は従来の国家ではなく、そこからはみ出した社会層の政治的リアクション

当初、政治行動における大衆様式研究は、政治研究における革命的な試みと評価された

2) ポリティック・アフリケーヌ誌を通じた研究の進展と共に、80年代のアフリカ政治研究における大きな流れに

3) 帰結点：バヤールの『アフリカの国家：胃袋の政治』（1989年）を集大成とし、『ブラック・アフリカにおける
下からの政治』（1992年）で締めくくられた

Politique Africaine 誌（初期）を通じて：

1) 「下からの政治」：日々の手管（tactique）（戦略まで行かない）の集積

- 2) 大衆の政治行動は、その多くがほのめかしであったり、発話を伴う領域で展開される。
- 3) Comi Toulabor : 下からの政治の実践を粘り強く研究 (小川 : 1998、岩田 : 2003 を参照)

「下からの政治」研究に対する批判

1) 批判点

- . バヤールの二項対立的思考とユーロセントリックを拒否する基本姿勢の矛盾
(上一下、支配者—被支配者との二項対立から脱却できていない)
- . ヨーロッパの思想家(フーコー : 統治性¹、ドゥルーズ : リゾーム国家、グラムシ : ヘゲモニー・ゼラチン状市民社会・受動的革命など)の概念への過度の依存
- . 雑多な要素を組み込んでアフリカの国家の複雑性を強調する中で、国家という概念が指す範囲が曖昧に
- . 用語や言い回しが不必要に難解(énigmatique)で技巧的
- . 変化の局面(民主化など)に対応できない
- . 大衆の政治的振る舞いを過大評価(実はとり立てて議論するほどのものではない?)
- . 下からの政治研究は、上からの政治との緊張関係の下でのみ意味を持つと言いながら、上からの政治の観点(支配階層に関する考察)が欠如している
- . 制度に関するケアがない
- . 地域の多様性に関する考察がない

- 2) J-F, Médard との論争 : 「下からの政治」vs 「新家産主義」国家(上からの政治・クライアンテリズム)
メダールの新家産主義 : 近代的制度の家産化・ウェーバーの支配の三類型の混合型、権力の集中
国家エリートと大衆との断絶を強調(→両者の密接な関係を説明できない)

「下からの政治」研究が残したもの : 政治人類学・国家誌 (Stategraphy) 研究の活性化 (小川 : 1998)

4 . 「下からの政治」の民主化・市民社会研究における文脈化

バヤールの反論

アフリカの国家を考える上で必要な要素 :

- 1) Actions politiques des sans importants (重要ではない人物の政治行動)
- 2) Aînés—Cadets sociaux (社会における長男と末っ子)
国家—市民社会関係の議論への継続性 : 支配側と被支配側はつながっている(線引きは難しい)
両者をつなぐ要素が「胃袋の政治」(Politique du ventre) → 腐敗 (Corruption) の一言では片付けられない
胃袋の政治は、支配層の独占物ではない(雑多な戦略の状況の下に存在)
- 3) アフリカにおける階層は形成中(エリートと大衆との関係は相対的) 新家産主義(固定的な上下関係)
- 4) 下からの政治・大衆的政治行動は、国家や権力と接触する(闘争と逃走)手段
- 5) リゾーム国家 : アフリカ(に限定されることではない)の国家における統治性と胃袋の政治との関係
→ 「不可視」であることよりも脱中心的なネットワーク構造を重視(大林 1996、岩田 1999)

市民社会論における解釈 (Bayart, 1992 : 261)

- 1) バヤールの議論に対する解釈(市民社会の国家との対立的関係に還元、民主化との直線的親和性)への不満
Politique par le bas は正義と同義ではなく暴力・排除との親和性もある(市民社会との共通性)
→むしろ、市民社会の性善性や民主化との関連を相対化して考えることが、アフリカ市民社会論の端緒となったと解釈されている英訳論文「アフリカの市民社会」(“Civil Society in Africa”)の原論文「アフリカ社会の反逆」(“La revanche des société africaine”)の狙いであった。

¹ 統治性とは、統治の技術、権力関係、理性や合理性による統治がはらむ問題(柳内 : 2001)

バヤールの統治性理解 : 行使される支配の技術と個人の技術との接点

2) 「アフリカ社会の反逆」(アフリカ市民社会論?)

市民社会とは、国家に関わり、権力の脱全体主義化(国家の相対化)をはかるもので、国家と社会における動的で、複雑で、両面的な関係(単に対立的であるばかりではない)に関わっている(国家--市民社会の対立的関係を強調)市民社会は不均質・多面的であり、単に被支配層によってのみ構成されるばかりではなく、支配層や権力とも関わっている。そして、国家と市民社会との関係は、明確なものではなく(グラムシの言葉を借りれば)ゼラチン状である(1983:99-101)。

民主化研究における議論

- 1) 市民社会や「下からの政治」は、自動的に民主化をもたらす訳ではなく、まして常に正義でもない。
→後の国家の犯罪化の議論と矛盾しない
- 2) 市民社会が支配の目になることはあり得る(1983:117)
- 3) 国家—市民社会の二元論的理解に対する繰り返しの反論

5. アフリカにおける国家像、国家-社会関係の問い直しと「下からの政治」の意味の変化

国家クライアンテリズムの衰退

- 1) 開発主体としての国家の相対化が進む: 「食べる」ための国家以外のネットワークの重要性の増大
- 2) 権力の分散
- 3) 市民社会の存在の増大と注目
- 4) アイデンティティの幻想 (Illusion identitaire): 中央集権国家は文化的平準化、画一化を生み出さなかった
政治的アイデンティティの産出主体としての国家の意味の変化

国家を中心(頂点)としないネットワークの発展:

- 1) アフリカの国家: 外に対する強い意識の下に存在している
外向的 (Extraversion) 戦略と下からの政治: 支配者と被支配者との関係は維持されながら、双方において外向きの戦略がとられている
- 2) 外向き戦略と従属性の構成要素: 強制力、悪知恵、逃走(≠断絶)、調停、適応、拒絶
→「下からの政治」との共通性
- 3) 外向き戦略の2つの帰結: 民主化への方向、軍事的方向
- 4) 収奪国家→まやかし国家 (Etat-Trickster) へ

紛争の時代: 破綻国家・国家の犯罪化との関連

- 1) 紛争の経済主体としての側面: 若者の雇用、一次産品の流通(流出)
- 2) 紛争と外向き戦略: 紛争の民営化、グローバル化(犯罪組織で顕著)
- 3) 紛争の大衆化と「下からの政治」の暴力化・犯罪化

6. むすびに

「下からの政治」研究者との対話を通じて

今後の研究展望

: アフリカの国家を理解するためのビジョンを提供するものなのか?

実証研究の中で議論を再構築する

<主要参考文献リスト>

- 岩田拓夫「アフリカ政治研究における『市民社会』概念の検討～J-F,バヤールの議論から～」『政経研究』第73号、1999年、59-71頁。
- 岩田拓夫「エヤデマイズムの現在：象徴権力の観点からの試論」『アフリカ研究』第62号、2003年、57-63頁。
- 大林稔「アフリカにおける国家とは何か：J,F,バヤールの『アフリカの国家』」日本国際問題研究所 編『アフリカ諸国の「国家建設」と課題』1996年、121-133頁。
- 小川了「国家誌の展望—その素描」大林稔 編『アフリカ：第三の変容』昭和堂、1999年、86-108頁。
- フーコー・ミシェル著、田村淑 訳『監獄の誕生』新潮社、1977年。
- 真島一郎「市民概念の語用とその限界-リベリア共和国から-」武内編『現代アフリカの紛争』アジア経済研究所、2000年、293-353頁。
- Bayart Jean-François, *L'État au Cameroun*, Presses de la Fondation nationale des sciences politiques, Paris, 1979.
- Bayart Jean-François, "Le politique par le bas en Afrique Noire: Questions de Méthode," *Politique Africaine*, N°1, 1981, pp.53-82.
- Bayart Jean-François, "La revanche des sociétés africaines," *Politique Africaine*, N°11, 1983, pp.95-127.
("Civil Society in Africa," in Chabal Patrick(ed.), *Political Domination in Africa*, Cambridge University Press, Cambridge, 1986, pp.109-125.)
- Bayart Jean-François, *L'État en Afrique: la Politique du ventre*, Fayart, Paris, 1989.
(*The State in Africa: The Politics of the belly*, Longman, London-New York, 1993.)
- Bayart Jean-François et al.(eds.), *Le politique par le bas en Afrique Noire*, Karthala, Paris, 1992.
- Bayart Jean-François, *L'illusion identitaire*, Fayart, Paris, 1996.
- Bayart Jean-François, "L'extraversion de l'Afrique," *Critique internationale*, No.5, 1999, pp.97-120.
- Bayart Jean-François et (al.), *The Criminalization of the State in Africa*, Indiana University Press, Bloomington-Indianapolis, 1999.
- Bourmaud Daniel, *La politique en Afrique*, Montchrestien, Paris, 1997.
- Deleuze Gille, Félix Guattari, *Mille Plateaux*, Les Éditions de Minuit, Paris, 1980.
- Médard Jean-François, *L'état sous-développé en Afrique noire : clientelisme politique ou neo-patrimonialisme ?* CEAN, Bordeaux ,1982.
- Médard Jean-François, "L'État patrimonialisé," *Politique Africaine*, N°39, 1990, pp.25-36.
- Médard Jean-François (ed.), *Etats d'Afrique noire : formation, mécanismes et crise*, Karthala, Paris, 1991.
- Médard Jean-François, "The Crisis of the Néo-Patrimonial State and the Evolution of Corruption in Sub-Saharan Africa," *Corruption: Critical Assessments of Contemporary Research*, CMI-NUPI-NORAD Working Paper, Oslo, 2000.10, pp.1-14.
- Toulabor Comi M, *Le Togo sous Eyadéma*, Karthala, Paris, 1986.
- Toulabor Comi M, "La dérision politique en liberté à Lomé" *Politique Africaine*, N°43, 1991, pp.136-141.
- Toulabor Comi M, "Le DZEKUME: Repas des dieux, Repas des hommes," *Revue internationale de politique comparée*, Vol.6, No.2, 1999, pp.405-415.